

これらの国々のほかに、カナダの各州政府、米国のワシントン州、カナダ太平洋鉄道やカナダ国有鉄道などの企業が参加することになっており、その数はさらに増えるものと思われる。

第二の魅力は、会場がバンクーバー市内であるため、交通や宿泊に便利なこと。別記のように、フォールス・クリークの北岸を中心とする主会場とバラード入江沿岸の会場地区ではエキスポ86に備えた再開発事業が進行中。両会場をつなぐ高速鉄道も、八六年始めには完成の予定である。

第三の魅力は、カナダだけでなく、米国のいう一大市場を控えていること。これは出展する各国や各企業にとって大きな意味をもつ。五月二日から十月十三日の会期中に、一千五百万人の観客が訪れるものと予想されている。そのおよそ半分は米国から（約百万人はその他の諸外国から）のお客さん、という見込みで、出展者にとっては製品や技術を売り込む絶好の機会となる。

なお、エキスポと並行して、バンクーバーの市制百周年を記念する、競艇、ロードオ、映画祭、芸術・科学展、音楽祭などの催しものも、エキスポ会場をはじめ、市内各地で開かれる。

●リニアモーターカー

バンクーバーに電車が戻ってくる――。バンクーバーで初めて電気鉄道網が敷かれたのは一八九〇年、最初の市外電車



どこでも歩いて行ける、というほどの小さな町であったが、交通網だけは北米の多くの都市より進んでいた。

市街電車は、曲折をへながら発展を続けたが、自動車の普及によりすたれ、一九五五年にはバンクーバーから姿を消してしまふ。残った大量旅客輸送機関はバス、トロリー・バスおよび海上バスだけ。しかし、交通混雑に巻き込まれるバスの評判はあまり良くない。市内に高速道路を通す構想も、市民の反対でつぶれた。

そこで浮かび上がったのが、市街電車の近代版ともいえる高速電車。そしてBC州政府が採用したのが、オンタリオ州の都市交通開発公社が開発した中量旅客輸送システム（ICTS）。

ICTS（バンクーバーでは新型軽量

が米バージニア州リッチモンドで生産されてからわずか二年後のことであった。人口たった一万四千人、二十

快速輸送システムⅡALRTⅡとして知られる）は、最新技術の自動制御・リニアモーター駆動方式を用いたもので、まず第一期工事として、一九八六年一月までにバンクーバー市街からニュー・ウェストミンスターまで二十一・四キロの路線が完成する予定。電車はバラード入江に面するウォーターフロント（埠頭）駅――そこで海上バス、陸上バス、ポート・コキトラムからの通勤電車と接続――を起点に、いったん岸に沿って西へ向かい、高層ビル街の下を通る旧タンズミューア・トンネルに入って急カーブを切り、完成したばかりのドーム型大競技場のところで再び地上に出る。そこから市内を南東にほぼ直進してニュー・ウェストミンスターへ向かう。バラード湾の海上バス発着場近辺にはエキスポ86のカナダ館

が、また大競技場からフォールス・クリークの沿岸にかけてはエキスポ本会場がおかれることになっており、ALRTは両会場を結ぶことになる。

ALRTは四両または二両（夜間、日曜日）編成で走り、時間当たり約一万人（最高三万人）を運ぶことができる。現在、市内各地やニュー・ウェストミンスターなどの郊外から、約十万人の通勤者が毎日バンクーバー市街に流れ込んでいるが、フォールス・クリークの北岸で開発が進んでいる一大商業・住宅地域「BCプレイス」が完成すると、その数はさらに膨れあがる。ALRTは、バンクーバーおよびその近郊の発展のために、どうしても必要な輸送機関なのである。州政府ではこのALRTを、将来さらに近郊に延長する計画だ。



拡張される巨大石炭港ロバーツバンク

混雑をきわめるバンクーバー港の石炭専用分港として、足かけ15年間頑張ってきたロバーツバンク埠頭で、いま拡張工事が進んでいる。年内にも第1期工事が終わると、積み出し能力は倍増されるという。

ロバーツバンクは、バラード入江のバンクーバー内港から30キロ南のフレイザー・デルタに、ジョージア海峡へ突き出るようにして作られた人工島。当初は面積20ヘクタールの石炭ターミナル（写真の島の右下、黒い部分）を1面だけ持ち、年間1,000万トン前後の石炭やコークスを積み出していた。10年程前から大規模な拡張計画が進められ、各20ヘクタールのターミナル3面の追加造成、島と本土を結ぶ堤道の拡張（従来は単線だった鉄道の複数線化）、長い防波堤の構築（写真右下）など、新しいロバーツバンクの全容がようやく、姿を現わしてきた。

新しいターミナル3面が全部完成すれば、年間5,000万トンの石炭・コークスが、州東南部からユニット・トレインでここへ運ばれ、さらに日本など太平洋諸国へ送り出されていくことになる。